

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（声楽）または学士（器楽）の学位を授与します。</p>		<p>本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような演奏家養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>優秀で個性あふれる演奏家であると同時に、人格、知性を兼ね備え、社会に通用する芸術家の育成を目指すため、専門実技関連科目を軸に科目を設定します。1年次に設定した基礎教育科目では、音楽関係はもとより社会で求められる一般的な英語力と情報スキルを身につけさせます。併せて、西洋で生まれた音楽を勉強する者にとって必要不可欠な外国語の履修を必須とします。専門教育科目においては主専実技の演奏能力を高めることを主たる目的とし、さらに音楽家として求められるアンサンブルや音楽指導に必要な合唱、合奏などのアンサンブルをはじめ、音楽史を含む多様な音楽理論や副専実技等を体系的、段階的に設定します。</p> <p>講義や演習科目の予習・復習はもとより、平素から実技技能向上に向けた自主練習、演奏の鑑賞により常に音楽に触れるよう指導します。実技の課題については学生個々の進捗や適性を考慮して与えます。評価については科目によって異なりますが、学期末試験はもとより授業中の小テスト、レポートその他も含めた総合評価を取り入れ、特に実技においては複数の教員の総合評価の平均を評価点として公正を期します。</p>	<p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>豊かな演奏技術の上に、人に感銘を与える演奏について自ら考え、高い芸術性を希求し、感性、技術、知性を磨き、心に響く演奏能力を身につけようとする情熱・意欲のある者。</p>
1. 知識・理解	1-1	ソルフェージュや和声法をはじめ、多様な音楽理論の専門的知識を有している。	<p>1年次… 主専実技の基本技術を伸ばし、音楽を学ぶ上で基礎となるソルフェージュや和声法、音楽史、合唱等の導入教育を行います。</p> <p>2年次… 主専実技は徐々にレベルの高い課題になり、指揮法、即興演奏、伴奏法などを学び専門性に広がりを持たせます。演習科目において音楽芸術の専門的研究を深め、表現・活用するための論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>3年次… 主専実技はさらにレパートリーを増やしていきます。楽曲研究、電子楽器、邦楽、室内楽等幅広い演習科目にて、専門領域に関連した知識・技能を身に付けます。</p> <p>4年次… 4年間の学習の集大成ともいえる卒業演奏へ向け、芸術的演奏表現を極めていくと同時に、高度な作品研究や指導能力を高めます。</p>
	1-2	音楽史や文化、音楽作品とその背景に関する幅広い知識を有している。	
	1-3	音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。	
2. 技能・表現	2-1	専門実技の技術面において高い能力、芸術性において高い表現力を有している。	<p>声楽・ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・フルート・クラリネット・サクソフォンの各主専実技を専修として学びます。「I」から「IV」までを順に履修し、ハイレベルの演奏能力を身につけることができる教育課程を編成します。また、その実技内容に関連した理論、副専実技を学ぶことができ、高度な技術力と芸術性に溢れる演奏家を育成します。</p> <p>「声楽」 個人レッスンにより、長所を伸ばすことで演奏技術を向上させるほか、合唱やオペラなどの重唱の技術を身につけることができます。</p> <p>「ピアノ」 個人レッスンで一人ひとりの可能性を高めつつ、テクニックを確実に獲得するとともに、独奏だけでなく伴奏や室内楽等の合奏技術を身につけることができます。</p> <p>「フルート、クラリネット、サクソフォン」 個人レッスンによる演奏技術の向上とともに、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>「ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ」 個人レッスンにより独奏の演奏技術を高めつつ、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>教育課程全般を通じて少人数の学科である特徴を活かした教育、指導を行い、学生の理解を高めます。</p> <p>卒業時の卒業演奏をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
	2-2	指導者・教育者として備えておくべき伴奏、合唱・合奏指導、指揮等の知識や技術を習得している。	
	2-3	合唱、合奏、室内楽等のアンサンブル、また、オペラ、コンチェルトなどの総合的な実技能力を習得している。	
3. 思考・判断	3-1	演奏家として人間性あふれる豊かな個性を有している。	<p>「声楽」 個人レッスンにより、長所を伸ばすことで演奏技術を向上させるほか、合唱やオペラなどの重唱の技術を身につけることができます。</p> <p>「ピアノ」 個人レッスンで一人ひとりの可能性を高めつつ、テクニックを確実に獲得するとともに、独奏だけでなく伴奏や室内楽等の合奏技術を身につけることができます。</p> <p>「フルート、クラリネット、サクソフォン」 個人レッスンによる演奏技術の向上とともに、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>「ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ」 個人レッスンにより独奏の演奏技術を高めつつ、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>教育課程全般を通じて少人数の学科である特徴を活かした教育、指導を行い、学生の理解を高めます。</p> <p>卒業時の卒業演奏をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
	3-2	自己、あるいは他者の演奏を客観的に聴き、評価する能力を有している。	
	3-3	指導者としての責任感や倫理観を持ち、人材を育成する意欲を有している。	
4. 態度・志向性	4-1	芸術と関わる上で、生涯にわたっての研究と自己研鑽を続ける向上心を持ち、音楽演奏によって豊かな社会を作る能力を有している。	<p>「フルート、クラリネット、サクソフォン」 個人レッスンによる演奏技術の向上とともに、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>「ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ」 個人レッスンにより独奏の演奏技術を高めつつ、オーケストラや室内楽などの合奏技術を身につけることができます。</p> <p>教育課程全般を通じて少人数の学科である特徴を活かした教育、指導を行い、学生の理解を高めます。</p> <p>卒業時の卒業演奏をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
	4-2	さまざまな感性を持った音楽関係者や社会と関わる上で必要なコミュニケーション能力を有している。	
	4-3	高い知性、善美な情操、高雅な徳性を兼ね備え、社会において演奏者、音楽指導者として活動するために必要な知識・技能とそれらを統合し活用できる能力を有している。	